

令和 4 年度

事業報告書

公益財団法人大阪陸上競技協会

公益財団法人大阪陸上競技協会
第2期 事業報告
(2022年4月1日～2023年3月31日)

(総括)

令和4年度の競技会に関する計画の策定、管理運営について、新型コロナウイルス感染症のまん延による感染予防対策を継続した。主催競技会においては、三密防止策のための招集手順の変更や手洗い消毒の励行、競技中以外のマスク着用、無声応援の推奨などの基礎的な対策のほか、無観客、他府県競技者の出場を制限するなどの対策を講じた。当該対策による参加競技者への影響等を最小限としていくため個々の競技会毎にきめ細かな対策を講じ取り組んだ。しかしながら感染症の影響は続き登録競技者及び参加者の減少が継続することとなった。他方、参加者の減少、予防対策による収益の減少、費用増加等が主催競技会収支を悪化させ、全ての主催競技会が赤字となった。今後は、感染症法上の類別の変更を踏まえ、参加競技者の拡大、観衆、視聴者の増加のため諸対策を講じ競技会の魅力向上、にぎわいを取り戻し収支の健全化を図っていく必要がある。他方、大阪マラソンにおいては、一般ランナーの参加を実現し、3万人弱が出走し市内の名所を駆け巡る久しぶりの都市型市民マラソンの醍醐味を味わうことができ、海外ランナーを含め大阪の都市魅力の発信に貢献できた。

大阪マラソンと連携して2023年2月20日からホテルニューオオタニ大阪を会場として第40回AIMS世界総会を開催した。大阪の情報発信力を高め、海外主要マラソンのレースディレクターとの交流を図った。

組織面の取り組みとして、広報委員会に広報戦略部、映像配信部を設置し、主催競技会のYouTube配信を常時行うなど競技会情報発信の多様化を進めた。

一方、本会の目的事業である陸上競技を通じてスポーツ文化の普及及び振興を図りもって府民の心身の健全な発達に寄与し、豊かな人間性を涵養することを具体化する事業として、陸上教室(大阪アスレチックスアカデミア事業)事業を4月から本格実施し、小学生、中学生、社会人を受講生として毎週木曜日の夜間に教室をヤンマーフィールド長居において開催し100名を超える参加者となった。また、一般府民向けのランニング教室として長居スプリントチャレンジをヤンマーフィールド長居において実施した。

11月26日に創立100周年記念式典をリーガロイヤルホテルで開催し、200名を超える出席者を迎えた。記念講演として有森裕子さんが主謀する特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールドのカンボジア王国での支援活動や理念に関し講話を受けた。弊会に功労のあった人々に対し特別表彰を実施した。また、新ロゴマークの公募による優秀作品の制作者等を表彰した。関連事業としてサニブラウン・ハキームさんのトークショー、田中希実さん講演会、寺田明日香さんのハードルクリニックを開催した。

以下、令和4年度における公益目的事業及び法人の管理運営について概括する。

1. 陸上競技に関する諸計画の実施及びその技術指導等に関する事業

当協会は、2022年度に実施する競技会に関して、世界選手権大会、日本選手権大会、国民体育大会等の上位競技会の開催状況を踏まえつつ、当会主催競技会、協力団体競技会など府内の全ての競技会の年間計画(スケジュール)を関係団体、競技場施設と調整を図り策定した。最新の国際陸連、日本陸連の競技規則の周知に関しては、4月当初に全審判員に対して「2022年度競技規則修改制」に係る講習会を実施しその周知を図る予定であったが、今期も新型コロナウイルス感染症まん延防止の観点から一同に集まっての講習会は中止し、修改正の内容についての質問への回答を

持って審判講習会受講済とする方法を採用した。

2022年度に大阪府内で行われた全ての主催・主管・共催・協力する競技会に審判員を派遣し技術指導を行った。

今年度は「緊急事態宣言」等が発令されることはなかったが、昨年に続いて感染防止対策を徹底した競技会運営を行った。ただ感染状況の変化に伴い、年後半からは他府県競技者の参加を認めるなど、一部制限を緩和して実施した。年間を通して中止や延期の措置を講じることなく全ての競技会を予定通り開催できた。

2. 陸上競技会的主催、運営等に関する事業

(1) 国内競技会

①大阪陸上カーニバル

4月24日にヤンマーフィールド長居で実施した。昨年は「緊急事態宣言」発令により7月に延期したが、当日「暴風警報」が出た為に途中中止となった。今年は予定通り4月開催ができた。

②第106回日本陸上競技選手権大会・第38回U20日本陸上競技選手権大会

6月9日～12日にヤンマースタジアム長居において、「オレゴン2022世界陸上競技選手権大会日本代表選手選考会」を兼ねて実施した。シニアでは3種目で6つ、U20では3種目で8つの大会新記録が出た。今大会で新たに男子8名、女子2名がオレゴン世界陸上代表に内定した。

③第90回大阪陸上競技選手権大会

6月24日～26日にヤンマースタジアム長居及びヤンマーフィールド長居で実施した。新型コロナウイルス感染症のために昨年度に続き大阪登録者のみの参加とした。

④2022年度大阪陸協加入クラブ対抗陸上競技大会

9月18日にヤンマーフィールド長居で実施した。今大会からシニア陸上競技選手権をなくし、女子のカテゴリーを2つに分けて実施したが、概ね好評であった。

⑤2023大阪ハーフマラソン

1月29日に大阪城公園スタート～ヤンマーフィールド長居フィニッシュの日本陸連公認、WA認証コースで実施した。昨年に続き関西学生ハーフマラソン選手権大会を併催して実施した。今年はヤンマースタジアム長居が工事中で使用できず、ヤンマーフィールド長居をフィニッシュとしたが特に大きな問題点も見当たらず無事終了した。ここ数年競技レベルが上がり日本有数のハーフマラソン大会となっている。女子の日本陸連登録の部8位までの入賞者は次年度の大阪国際女子マラソンの準招待選手に選ばれた。

⑥第106回日本陸上競技選手権大会・室内競技

2月4日、5日に大阪城ホールで開催した。本大会は日本陸上競技連盟が主催する唯一の室内競技会であり、日本選手権に加え、U20、U18、U16のアスリートが舞台を共にすることが出来る有意義な競技会となっている。今年も有観客で実施し、盛り上がりのある大会となった。

⑦その他記録会等

大阪陸上競技記録会は4月3日に第1回、4月9日、10日に第2回を実施した。

大阪陸上競技記録会中学の部は4月10日から10月22日まで計5回実施した。

長距離記録会は6月3日にナイター記録会、11月13日に第1回記録会、12月10日に第2回記録会、12月17日に第3回記録会を実施した。

(2) 国際競技会

①日本GP第9回木南道孝記念陸上競技大会

4月30日・5月1日にWAコンチネンタルツアー・ブロンズ大会として実施した。今年から男女の混成競技を加え2日間に拡大して実施した。コロナで心配されたが、5カ国から海外選手を招聘することができ盛り上がった大会となった。また昨年から実施しているYouTubeによるライブ配信も行った。

②第42回大阪国際女子マラソン

1月29日にヤンマーフィールド長居発着の日本陸連公認、WA/AIMS認証コースで実施した。大阪ハーフマラソン同様ヤンマースタジアムが工事中の為スタート・フィニッシュが変更となったが、大きな混乱もなく無事終了した。今回、第30回大会以来12年ぶりにコース変更が行われ、好記録が期待できるコースとなった。そして久しぶりに外国人選手を招聘でき、国内招待選手とのデッドヒートが繰り広げられた。結果4名のMGC出場権獲得者を出した。

③大阪マラソン2023

2月26日に大阪府庁前スタート、大阪城公園内フィニッシュとする大阪マラソンコース（WA/AIMS認証コース）で開催した。昨年はエリートのみでの大会であったが、今年は3万人を超える一般市民ランナーが参加し、名実共に世界水準の都市型市民マラソンとなった。特に大きな問題もなく終了したが、フィニッシュ地点の特殊性から入賞者管理の混乱や一般ランナーの対応など細かな所で来年に向けての課題も残った。

(3) 府民・市民向け陸上イベント

①長居スプリントチャレンジ2022

府民、市民の皆さんの中で、本格的な陸上競技場で走ったことのないが走ってみたいと希望される方々に、気軽に走っていただくことができるよう「長居スプリントチャレンジ」を実施した。今年は9月10日にヤンマーフィールド長居で実施したが、子どもたちやその家族、日本陸連に登録していない中高生約700人が参加した。準備運動、スタートブロックの装着指導、スタートテストについて、当協会の指導者が丁寧に指導、援助した。また、写真判定装置による公式計時、その結果を表示した大型スクリーン前での写真撮影を実施し、好評であった。

3. 陸上競技会に対する役員及び競技者の派遣に関する事業

国民体育大会、全国都道府県対抗男子駅伝、同女子駅伝、その他2022年度各競技会について

(1) 主な競技会への監督・コーチ・選手派遣

① 第77回国民体育大会（いちご一会とちぎ国体）

島津監督・舩津監督以下、コーチ9名・マネジャー2名・トレーナー3名、選手29名を派遣。

・男女総合（天皇杯）優勝 120.5点（2位:兵庫県 107点、3位:千葉県 100点）

・女子総合（皇后杯）優勝 70.5点（2位:兵庫県 66点、3位:東京都 62.5点）

② 皇后盃 第41回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

安田監督以下、コーチ5名・トレーナー1名・当日支援コーチ1名、選手13名（うち補欠4名）を派遣。

・総合 優勝 2°15'48"

（2位:京都府 2°16'37"、3位:福岡県 2°16'47"）

③ 天皇盃 第28回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

鈴木監督以下、コーチ6名・選手10名（うち補欠3名）を派遣。

・総合14位 2°20'30"（優勝:長野県 2°17'10"、8位 2°18'45"）

(2) その他の競技会への監督・コーチ・選手派遣

① 第75回全国高等学校陸上競技対校選手権大会（8月3日～8月7日：徳島県・鳴門スガ

ーツパーク ボカリスエットスタジアム)

船津総監督(高体連強化部長)、成瀬男子監督(東海大仰星高校)、井畑女子監督(関大北陽高校)、選手80名を派遣。男子棒高跳(渡邊・大塚高校)で優勝。

- ② 第49回全日本中学校陸上競技選手権大会(8月18日～21日:福島県・あづま総合運動公園 とうほう・みんなのスタジアム)

田中監督(中体連強化部長)以下、強化部員、選手79名(男子42名・女子37名)を派遣。女子砲丸投(筒井・墨江丘中学校)で優勝(同一校・同種目で2連覇)した。

- ③ “日清食品カップ”第37回全国小学生陸上競技交流大会(8月19日～20日:神奈川県・日産スタジアム)

選手14名(男子7名・女子7名)が出場し、混合4×100mR(島本ジュニア)で7位、6年男子100m(河野・大阪スプリント)で8位入賞した。

- ④ 第16回U18/第53回U16陸上競技大会(10月21日～23日:愛媛県・ニンジニアスタジアム)

U18陸上競技大会では女子砲丸投(坂・大体大浪商高校)で優勝。

U16陸上競技大会には、選手35名(男子17名・女子18名)が出場し、女子1000m(北村・東大阪大敬愛高校)で2位、男子100m、女子三段跳、女子円盤投で3位。

4 陸上競技指導者等の表彰に関する事業

(1) 公認審判員、競技者、指導者等の表彰

① 公認審判員、指導者等の表彰

功労賞は、審判員等として献身的に大阪の陸上競技のために貢献してきた方に授与するものであり、本年度は5名の方に授与した。

優秀指導者賞は、ジュニア競技者の育成に顕著な業績を上げた優秀な指導者に授与するものであり、本年度は中学生の指導者2名、高校生の指導者2名を表彰した。

② 競技者の表彰

勲功章は、全国大会等の優勝者、大阪新記録の樹立者に授与するもので、今年度は35名の競技者に授与した。

③ その他の表彰

世界記録・アジア記録樹立時の競技者・指導者表彰に関する該当者はなかった。

④ 激励金の交付

オレゴン世界選手権の代表となった坂井、小池、泉谷、河内、萩谷、秦、松田、青山、御家瀬の9選手に大会規定に基づき激励金を贈呈した。

(2) 創立100周年記念表彰

特別功労表彰としてオリンピック競技大会又は世界陸上競技選手権大会においてメダルを獲得し、大阪の陸上競技の普及及び発展に貢献し、特に顕著な功労のあった浅利純子さん(1993年シュトゥットガルト世界陸上競技選手権大会女子マラソン金メダル)、朝原宜治さん(2008年北京オリンピック競技大会男子4×100mリレー銀メダル)、多田修平さん(2017年ロンドン世界陸上競技選手権大会男子4×100mリレー銅メダル、2019年ドーハ世界陸上競技選手権大会男子4×100mリレー銅メダル)、堀越信司さん(2021年東京パラリンピック競技大会男子マラソン銅メダル)、和田信也さん(2021年東京パラリンピック競技大会男子1500m銀メダル、5000m銅メダル)に記念品を贈呈した。

会長特別表彰として大阪における陸上競技の普及及び発展に貢献し、協会の発展に特に顕著な功績を残した横川浩さん(会長として法人移行への陣頭指揮にあたり、また事業の拡充を図るとともに

大阪府、大阪市と共催する大阪マラソンの初代会長として創設に貢献するなど、大阪の陸上競技界の発展に著しく貢献した。）、吉見正憲さん(理事長を永年努め、事業の拡充、強化を図り、2007年世界陸上競技選手権大会の誘致を成し遂げその運営を着実に行うなど、大阪の陸上競技界の発展に著しく貢献した。)、薬師寺茂夫さん(理事長、副会長、大阪マラソン事務局長を永年努め、強化事業及び大阪マラソン発展並びにOSAKA夢プログラム事業の創設・運営に貢献し、大阪の陸上競技界の発展に著しく貢献した。)、七條昌一さん(事務局長を永年努め協会の発展に貢献するとともに、大阪マラソンの初代事務局長として大阪マラソンの創設及び運営に尽力し、大阪の陸上競技界の発展に著しく貢献した。)に記念品を贈呈した。

貢献賞として、永年に渡り公益目的事業に協力し、大阪の陸上競技界の発展に著しく貢献した岩谷産業株式会社、大阪ガス株式会社、オリックス株式会社、関西ペイント株式会社、株式会社クボタ、株式会社オプテージ、株式会社Cominix、サントリーホールディングス株式会社、株式会社椿本チエイン、住電商事株式会社、住友大阪セメント株式会社、住友ゴム工業株式会社、株式会社住友倉庫、住友電気工業株式会社、住友電設株式会社、ダイキン工業株式会社、ダイハツ工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、TMTマシナリー株式会社、株式会社テクノアソシエ、西日本電信電話株式会社、阪急電鉄株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、株式会社三井住友銀行、株式会社三井住友信託銀行、株式会社三菱UFJ銀行、レンゴー株式会社に記念品を贈呈した。

また、永年に渡り公益目的事業に協力、支援を行い大阪の陸上競技の発展に著しく貢献した大阪市、大阪城ホール株式会社、一般財団法人大阪スポーツみどり財団に感謝状を贈呈した。

大阪陸協所属審判員として35年以上に亘り、大阪における陸上競技会の運営に功労のあった者(90周年記念大阪選手権において表彰された者を除く)91名にその功労に感謝し記念品を贈呈した。

特別表彰(過去10年)として、大阪陸協所属の実業団、大学、高校、中学でそれぞれの全国大会において優勝を遂げたチームの指導者4名、大阪陸協所属競技者で日本記録を樹立した競技者の指導者10名に記念品を贈呈した。

5. 陸上競技選手等の育成・指導に関する事業

(1) 強化事業(競技者の育成)

① 女子長距離夏季強化合宿

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会での優勝を目指し、その中心となる高校生候補選手7名を集め、御岳高原高地トレーニングエリアで10日間(7月9日～18日)の強化合宿を実施した。

② 男子長距離夏季強化合宿

全国都道府県対抗男子駅伝競走大会での上位入賞を目指し、大阪中学校体育連盟陸上競技専門部と連携し、中学生男子38名が参加し御岳高原高地トレーニングエリアで3日間(7月27日～29日)の強化合宿を実施した。

③ 小学生中学生合同練習会

大阪中学校体育連盟陸上競技専門部と大阪小学生陸上運動研究協議会と連携し、小中学生合同での第1回練習会を7月28日、万博記念競技場で実施。小学生23名、中学生111名が参加した。

第2回を1月8日、万博記念競技場で実施。小学生19名、中学生174名が参加した。

④ 国体強化合宿

第77回国民体育大会での男女総合優勝を目指し、その大阪代表選手を集め、水口スポーツの森 陸上競技場で3日間(8月29日～31日)の強化合宿を実施した。

⑤ 国体強化練習会

第77回国民体育大会での男女総合優勝を目指し、9月19日にその大阪代表選手を集め、ヤンマーフィールド長居で強化練習会を実施した。

⑥ 強化選手＜中学生・高校生＞練習会

2023年度全国大会で上位入賞を狙える強化選手Aランク30名（中学生5名・高校生25名）と下位入賞を狙える強化選手Bランク94名（中学生47名・高校生47名）を選考し、強化練習会を2回（12月10日、2月19日）万博記念競技場で実施した。

⑦ 高体連強化育成練習会

2023年大阪高体連強化標準記録突破選手と高体連強化コーチ推薦選手が参加して、12月25日～27日ヤンマーフィールド長居・金岡公園陸上競技場等を利用して実施。男女計241名が参加した。

⑧ 冬季大阪ジュニア陸上強化合宿

大阪中学校体育連盟陸上競技長距離強化選手12名・強化部推薦選手43名を集め、紀三井寺陸上競技場およびその周辺で3日間（12月26日～28日）の強化合宿を実施した。

⑨ 男子駅伝チーム合同練習会

全国都道府県対抗男子駅伝競走大会で過去最高順位の更新を目指し、選手11名（中学生5名、高校生6名）で長居公園周回コース（12月27日・28日・29日）と金岡公園陸上競技場（1月7日・14日）を使用して合同練習会を実施した。

⑩ 女子駅伝チーム年末合宿

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会での優勝を目指し、選手8名（中学生3名、高校生5名）と来年度に向けての育成選手3名を集め、駅伝コースおよびその周辺で2日間（12月29日～30日）の強化合宿を実施した。

⑪ 女子駅伝チーム試走合宿

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会での優勝を目指し、選手7名（中学生3名、高校生4名）と来年度に向けての育成選手2名を集め、実際の駅伝コース試走を中心に3日間（1月4日～6日）の調整合宿を実施した。

⑫ 男子駅伝チーム試走

全国都道府県対抗男子駅伝競走大会で過去最高順位の更新を目指し、選手11名（中学生5名、高校生6名）で実際の駅伝コース試走を中心に日帰り（1月5日）で試走練習会を実施した。

⑬ 冬季強化合宿

2023年度全国大会で上位入賞を狙える強化選手Aランクを中心に33名（男子9名・女子24名）を選考し、鹿児島県のジャパンアスリートトレーニングセンター大隅で4日間（1月4日～7日）の強化合宿を実施。

⑭ 中体連強化選手練習会

大阪中学校体育連盟陸上競技強化選手57名・強化部推薦選手35名を集め、強化練習会を4回（1月22日、2月12日、3月5日、3月18日）万博記念競技場で実施した。

⑮ 春季大阪ジュニア陸上強化合宿

大阪中学校体育連盟陸上競技強化選手53名・強化部推薦選手等90名を集め、紀三井寺陸上競技場およびその周辺で3日間（3月27日～29日）の強化合宿を実施した。

(2) 指導者の育成

有資格者（日本スポーツ協会および日本陸上競技連盟公認スポーツ指導者）の育成

① JAAF公認コーチ<JSPO公認陸上競技コーチ3>

日本スポーツ協会・日本陸上競技連盟主催の「JSPO公認陸上競技コーチ3養成講習会」に受講者を推薦した。

② JAAF公認ジュニアコーチ<JSPO公認陸上競技コーチ1>

2015年度から7回目(2020年度のみコロナ感染拡大による中止)の「JSPO公認陸上競技コーチ1養成講習会」大阪会場を開催し、63名が受講した。

③ JAAF公認スタートコーチ<JSPO公認陸上競技スタートコーチ>

2022年度から始まった「JAAF公認スタートコーチ養成講習会」も大阪会場を開催し、23名が受講した。

④ 日本陸上競技連盟委嘱 エducーター<コーチ育成者>

2022年度「エducーター養成講習会」を受講し「JAAF公認スタートコーチ養成講習会」大阪会場を開催したため、日本陸上競技連盟よりエducーターとして1名が内定。

⑤ 冬季大阪ジュニア陸上競技指導者研修合宿

大阪中学校体育連盟各地区陸上競技専門部委員会から推薦を受けた陸上競技部顧問に3日間(12月28日～30日紀三井寺陸上競技場)参加してもらい、陸上競技(2022年度は短距離・ハードル・走幅跳)を通した身体リテラシーの育成方法や実践的指導理論に基づく中学生に最適なトレーニング方法を習得してもらった。

⑥ 近畿ブロック研修合宿への指導者派遣

中学生の陸上競技に携わる選手及び指導者が競技に対する知識と理解を深めながら種目に応じた技術指導の中、一層の競技力向上に寄与するとともに集団生活を通じて基本的な生活習慣の確立と選手相互の友情を培うことを目的として3日間(1月7日～9日紀三井寺陸上競技場)の研修合宿を実施した。

2019年度までは上記目的で日本陸上競技連盟主催(日本陸連から予算240万円)合宿だったが2020年度から中止した。しかし、この近畿ブロックが一つになっての合宿は選手にとっても指導者にとっても大変意義あるものであったため、近畿陸上競技協会に主催をお願いし、2022年度以降も継続していくことを決めた。

⑦ 有資格指導者への情報発信、資格更新研修会

資格有効期限間近の指導者に連絡、更新研修会を紹介するとともに、上記⑤を資格更新研修会として、有資格者に受講を勧めた。

⑧ 中学生・高校生の指導者対象の各種目別実技指導講習会

大阪中学校体育連盟陸上競技専門部、大阪高等学校体育連盟陸上競技部、また各市陸上競技協会等と連携し、年数回の種目別実技指導講習会を開催した。

(3)大阪アスレックスアカデミア事業

令和3年9月の試行を経て令和4年4月から開始した。小学生、中学生、社会人を対象にヤンマーフィールド長居を拠点として週1回講座を開催した。カリキュラムは、運動の苦手な子どもたちも参加できる内容とし、初心者の方には各々の運動能力に配慮したものとした。

とりわけ、小中学生の受講生の心身の健全な育成と成長を丹念に支援していくとの事業目標のもとに、子供たちが楽しく運動に触れあえるものとし、走、投、跳の基礎動作について用具を使って楽しく学習、体験できるものとした。中学生の育成指導に関して実績のある当会の理事、職員に加えオリンピック、国際陸連公認コーチ、日本スポーツ協会公認指導員、看護師をコーチ、支援員に配置した。保護者に対しても、運動の基礎理論や小学生期の発達段階における育成の方法、栄養取得などに関する講義を行い、身近な家庭からも成長を見守れるよう支援を行った。

また、大阪市の後援を受け、同市の広報の支援をいただくなど事業の幅広い広報活動を行った。

＜受講者実績＞

学年	人数	備考
小学４年生	８人	
小学５年生	２４人	
小学６年生	２４人	
その他	２８人	低学年児童等
中学１年生	１２人	
中学２年生	６人	
中学３年生	１人	
社会人	３人	
計	１０６人	

（４）第１期ＯＳＡＫＡ夢プログラム事業成果

・事業概括

本事業は、地元大阪から２０２０東京オリンピック競技大会に代表選手を送り、スポーツを通じた地域の活性化につなげたいとの決意のもとに地元経済界の多大なるご支援をいただき平成２７年９月からスタートした。令和３年６月にヤンマースタジアム長居で開催した『第１０５回日本陸上競技選手権大会（東京オリンピック代表最終選考会）』において、男子１００ｍで多田修平選手、同２００ｍで小池祐貴選手が優勝し、個人種目とリレーで念願のオリンピック出場が決定するなどの成果を上げた。指定競技者全員のオリンピック出場は叶わなかったが、延期されなければ出場できていた女子やり投の佐藤友佳選手や史上最強の女子マラソン補欠選手と言われた松田瑞生選手をはじめ各指定競技者の今後の活躍が期待される。

・第２期事業の推進、指定競技者の選定

第１期の成果（代表選出２名、海外指導者との連携、海外遠征ノウハウの習得等）を踏まえ第１期事業からの継続指定競技者に加え２０２０東京オリンピック・パラリンピック出場選手等からなる第２期ＯＳＡＫＡ夢プログラム事業の指定競技者を決定した。第２期事業については大阪登録選手だけでなく、大阪ふるさと登録選手も指定競技者に選考し、パリオリンピック・パラリンピックでのメダル獲得、入賞を目指すこととした。今期は、海外のナショナルチームへの合同練習をはじめ海外競技会への参戦など積極的な海外遠征を実施した。特に冬季の室内競技会などへの参加を行い国際レベル競技者が参加する競技会体験を増やし、自己記録更新などの成果を上げた。

＜２０２２年度 ＯＳＡＫＡ夢プログラム 指定競技者（第Ⅱ期）＞

	氏 名	性別	所 属	種 目
１	多田 修平	男子	住友電気工業	１００ｍ
２	坂井 隆一郎	男子	大阪ガス	１００ｍ
３	小池 祐貴	男子	住友電気工業	１００ｍ、２００ｍ
４	伊藤 利来也	男子	住友電気工業	４００ｍ
５	泉谷 駿介	男子	住友電気工業	１１０ｍＨ
６	北田 琉偉	男子	日本体育大学	棒高跳
７	渡邊 瑛斗	男子	筑波大学	棒高跳
８	アツオビン・ジェイソン	男子	福岡大学	砲丸投
９	福田 翔大	男子	日本大学	ハンマー投
１０	丸山 優真	男子	住友電気工業	十種競技

11	青山 華依	女子	甲南大学	1 0 0 m
12	塩見 綾乃	女子	岩谷産業	8 0 0 m
13	萩谷 楓	女子	エディオン	5 0 0 0 m
14	寺田 明日香	女子	ジャパングリエイト	1 0 0 mH
15	田中 佑美	女子	富士通	1 0 0 mH
16	松田 瑞生	女子	ダイハツ工業	マラソン
17	前田 穂南	女子	天満屋	マラソン
18	秦 澄美鈴	女子	シバタ工業	走幅跳
19	佐藤 友佳	女子	ニコニコのり	やり投
20	堀越 信司(パラ競技)	男子	N T T西日本	マラソン

(5)障がい者競技者指導、競技会への役員派遣

大阪市障害者福祉スポーツ協会の委託を受け、障がい者対象の陸上教室（ラン r u n ラン）に指導者を派遣し、楽しく陸上競技、スポーツを楽しめるよう指導した。今年度は、大阪アスレチックスアカデミア事業とも連携して一緒に練習を行う取り組みも実施した。

大阪市障がい者スポーツ大会及び大阪府障がい者スポーツ大会の審判員を派遣し競技運営にあたるとともに、全国障がい者スポーツ大会の大阪府選手団の選考を行い、大会に役員を派遣した。また、大阪府選手団の練習会の指導を行った。さらに、ヤンマースタジアム長居において開催された全国視覚障がい者駅伝大会へ審判員を派遣した。

6.その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(1) 競技者・公認審判員登録管理等

登録競技者数(過去4年推移)

年度	登録競技者数	増減
2019	29,695	—
2020	27,199	△2,496
2021	25,682	△1,517
2022	25,045	△637

登録競技者数は、新型コロナウイルス感染症の蔓延による影響を受け大きく減少してきたが、大規模マラソン大会が通常開催に戻るなどの環境変化を背景に減少傾向は下げ止まりの兆候が見られる。

公認審判員登録数(期末登録者数)

年度	大阪陸協公認審判員登録者数	増減
2019	1,510 人	—
2020	1,406 人	△104 人
2021	1,326 人	△80
2022	1,341 人	15 人

当会が所管する公認審判員登録者数は、登録者の高齢化が進み審判編成や審判技術の継承にも課題が生じている。とりわけ大規模大会での審判員の確保に困窮する事態も生じており、高年齢審判員の定年制の見直しや学生・高校生などの若年審判員の育成、活用が課題となっている。

(2) 広報活動(ホームページ、Y o u T u b e、S N S等の活用促進の推進)

当会活動の発信力を高めていくため、ホームページ掲載コンテンツの即時性を高め、見やすい画面にするように運用改善を進めた。Y o u T u b e 配信を活用した生中継等のコンテンツの充実を

図るため広報委員会メンバーが発信の高度化に取り組んだ。また、スマートフォンで簡単にみられるように改良した。TwitterやFacebookへの投稿にも努めた。

競技会要綱、エントリーリスト、スタートリスト、リザルト速報、公式リザルトなど競技会情報をタイムリーにホームページに掲載し、府・市民の皆様の誰もが閲覧できるようにした。

大阪マラソンにおいては、びわ湖毎日マラソンとの統合により、日本放送協会、毎日放送、読売テレビにおいて中継放送を実施した。一般の部のランナーを含む約3万人の参加により大いに盛り上がった。

OSAKA夢プログラム事業は専用ホームページにおいて、活動の様様や結果を報告した。

第9回木南記念陸上においては、YouTube中継配信を行い関西テレビアナウンサー、解説に各種目の専門家を招請し実況中継を行った。府立箕面高校放送部との連携による交流にも努めた。

主催競技会では実況解説付きでYouTube配信を実施できるように小型カメラ等の購入など設備投資を実施した。

大阪アスレチックスアカデミア事業専用ホームページを設けたほか、大阪市の後援を獲得し、市を通じた広報も行っていたいただき、全小学生向けに配布されるリーフレットにも掲載いただくなど広く市域の小学生や保護者への周知を進めた。

(3) 公認審判員の育成等

2022年度審判講習会、新規公認審判員認定講習を下表の日程で実施した。本講習会において、国際陸連・日本陸連競技規則の修改正周知を図った。

回	期日	大会名	場所	参加者
第1回	2022.4.10	第2回記録会	ヤンマースタジアム長居	37
第2回	2022.5.7	大阪マスターズ陸上大会	ヤンマーフィールド長居	137
第3回	2022.6.18	第4回記録会(中学生)	万博記念公園陸上競技場	38
第4回	2022.7.3	大阪実業団陸上	ヤンマーフィールド長居	147
第5回	2022.8.5	第1回学連競技会	ヤンマーフィールド長居	22

AED操作講習会は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ中止した。

(4) 創立100周年記念事業

2022年度の創立100周年事業準備委員会を組織し、記念式典、記念表彰、講演会、祝賀会、陸上クリニック、新ロゴマークの制定など下表に掲げる9事業を実施した。

また、本委員会に100年史編集委員会を組織し、史実、人物、国際競技会等の記録のほか写真、動画を収集し委員が分担して編集、執筆を進めた。令和4年3月にデジタル版として頒布した。

創立100周年記念事業一覧

	項 目	内 容
1	デジタル記念誌	編集委員会を組織し100年史の文章記述の編纂に加え、映像・資料・写真を豊富に盛り込み、2023.3月に発刊した。
2	研究集会、クリニック等	10.23 サニーブラウントークショー
		12.13 田中希実後援会
		12.25 寺田明日香 hurdle-Clinic
3	記念式典	11.26 リーガロイヤルホテル光琳の間 参加 200 名
		講演 有森裕子(日本陸上競技連盟副会長、特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド代表)
		式典 吉村洋文大阪府知事を迎え、100周年記念特別表彰などを

		実施。
4	木南記念国際化	国際陸連コンチネンタルツアー・ブロンズとして海外競技者を招待 ※新型コロナウイルス感染症の影響から一定の制限下で実施
5	アカデミア創立	小学生・中学生・社会人を受講者とする陸上教室・大阪アスレチックアカデミア事業を創設。会員 106 名。
6	AIMS 総会誘致	第 40 回 AIMS 国際総会をホテルニューオオタニ大阪にて 2023 年 2 月 20 日から 26 日に開催した。 ホスト国として、山中伸弥京都大学教授、当会竹内章専務理事が講演、報告を行った。
7	第二期夢プログラム事業	第二期夢プログラム事業を開始し、パリオリンピック・パラリンピックを目指すこととした。
8	ロゴマーク新設、公募	100 周年に相応しいロゴマークを公募、新ロゴマーク選考委員会にて選定し、記念式典において披露、表彰した。
9	EXPO2025 提携事業	競歩大会などを令和 5 年度から実施していく。EXPO 連携マラソンについては今後継続検討していく。

(5) その他

評議員会など機関会議等の開催状況、重要な検討事項について、以下の通りである。

1) 評議員会の開催状況、審議内容は、次のとおりである。

○令和 4 年度 定時評議員会 令和 4 年 6 月 1 (水)住友クラブ多目的室

1. 任期中の評議員会議長、副議長の選出について

第 1 号議案 理事の解任、選任(副会長・理事の異動)について

第 2 号議案 令和 3 年度事業報告について

第 3 号議案 令和 3 年度貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録の承認について
令和 3 年度監事監査報告について

第 4 号議案 定款改正について

II、報告事項

1. 令和 4 年度の主要事業について

2. 創立 100 周年記念事業について

○令和 4 年度臨時評議員会 令和 5 年 3 月 29 日(水)住友ビル(12 階特別室)

議案第 1 号 理事、監事の選任(内定)について

議案第 2 号 常勤理事の報酬について

その他(連絡・報告事項)

(1) 令和 5 年度事業計画、予算について(報告)

(2) 評議員の任期満了に伴う改選手続きについて(連絡)

(3) 主要事業について(報告)

・大阪マラソン、大阪国際女子マラソン、OSAKA 夢プログラム

2) 理事会の開催状況は、以下のとおりである。

○令和 4 年度 第 1 回理事会令和 4 年 5 月 17 日 (火)

I 報告事項

1. 2022 年度審判講習会について

2. 競技会報告

・第 1 回大阪陸上競技記録会(万博・長居)

- ・第2回大阪陸上競技記録会
- ・第1回大阪陸上競技記録会（中学）
- ・第1回小学生陸上競技記録会〔枚方〕
- ・第2回大阪陸上競技記録会（中学北部＜万博＞・南部＜長居＞）
- ・大阪陸上競技カーニバル
- ・国際陸連、コンチネンタルツアー日本 GP 第9回木南道孝記念陸上競技大会

II 連絡事項

1. 第106回・第38回U20日本陸上競技選手権大会について
2. 第90回大阪陸上競技選手権大会について

II 協議事項

- 1 定時評議員会〔6月1日〕の追加議案について
2. 令和3年度事業報告、決算報告、監査報告について
3. 特定費用準備資金、資産取得資金等の取崩、積立について
4. 定款変更について
5. 理事の解任、選任について
6. 大阪マラソン組織委員会の損失に対する負担処理について

III その他

- ・事務局連絡等、各委員会報告

○令和4年度 第2回理事会、令和4年8月24日（水）

I 報告事項

- 1 定時評議員会について
- 2 第106回日本陸上競技選手権大会について
- 3 第90回大阪陸上競技選手権大会について
- 4 JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会について

II 連絡事項

- 1 NAGAI Sprint Challenge 2022について
- 2 2022年度大阪陸協加入クラブ対抗陸上競技大会について
- 3 大阪マラソン2023 について
- 4 創立100周年事業準備委員会報告について

II 協議事項

- 1 大阪マラソン開催組織の法人化について
- 2 2023年2月AIMS世界総会について
- 3 新ロゴマーク決定について
- 4 中期5カ年計画の進捗状況と今後の課題について
- 5 業務執行理事の業務執行状況の法定報告義務への対応について
- 6 業務執行理事の解任決議について
- 7 とちぎ国体・大阪代表選手選考について

III その他

- ・事務局連絡等、各委員会報告

○令和4年度第3回理事会 令和4年10月14日（金）

I 報告事項

- 1 競技会報告
- ・第55回近畿高校ユース陸上競技対校選手権大会

- ・リレーフェスティバル・U16都道府県対抗リレー
 - ・2022アンリミテッドスポーツフェスティバル
 - ・第76回大阪中学校総合体育大会陸上競技の部
- 2 近畿陸協役員総会について]
 - 3 NAGAI Sprint Challenge 2022について
 - 4 2022年度大阪陸協加入クラブ対抗陸上競技大会について
 - 5 第77回国民体育大会 栃木大会(天皇杯・皇后杯獲得報告)について

II 連絡事項

- 1 第42回大阪国際女子マラソン・2023ハーフマラソンについて
- 2 大阪マラソン2023 について
- 3 第106回日本陸上競技選手権大会・室内競技について

III 協議事項

- 1 創立100周年記念事業について
 - ・特別表彰者、90周年以後の功労者表彰者等の決定について
 - ・100周年記念史編集について
 - ・トークショー、クリニック事業について
 - ・創立100年記念式典準備、当日役割、担当等について

IV その他

- ・事務局連絡等、各委員会報告
- 令和4年度 第4回理事会 令和4年12月6日(火)

I 報告事項

3. 競技会報告
 - ・大阪陸協長距離第1回長距離記録会
 - ・OSAKA EKIDEN in 長居兼第25回全国視覚障がい者駅伝大会
 - ・第6回小学生陸上記録会兼大阪小学生陸上競技会
 - ・第73回大阪中学校駅伝兼第44回大阪中学校女子駅伝競走大会
 - ・第42回男子・第35回女子近畿中学校駅伝競走大会
 - ・第73回全国高校駅伝兼第34回全国高校女子駅伝大阪府予選会
 - ・第72回近畿高校駅伝・第37回近畿高校女子駅伝競走大会〔11/27〕
 - ・大阪ロードレース

4. 創立100周年記念式典挙行(11月26日)

II 連絡事項

1. 第42回大阪国際女子マラソン・2023ハーフマラソンについて
2. 第106回日本陸上競技選手権大会・室内競技について
3. 大阪マラソン2023 について
4. 第10回木南記念陸上大会について〔

III 協議事項

1. 創立100周年記念事業について
 - ・100周年記念史編集について
 - ・田中希実トークショー〔12月13日〕
 - ・寺田明日香クリニック〔12月25日〕
2. 「2023 AIMS世界総会」について
3. 「OSAKA夢プログラムファンクラブ」の設立について

4. 令和4年度「大阪市スポーツ協会スポーツ功労表彰」の推薦について
5. 令和4年度中間決算報告について
6. 評議員、理事、監事の改選手続きについて
7. 評議員・理事・監事推薦候補者選定委員会委員の選任について
8. 評議員選定委員会委員の選任について

IV その他

・事務局連絡等、各委員会報告

○令和4年度第1回臨時理事会(定款第44条に基づく決議の省略を適用し開催)

提案書兼同意書(令和5年1月23日付け)電磁的通知、同意回答

理事、監事あて、公益財団法人大阪陸上競技協会代表理事・会長松本正義名通知

1 決議事項

令和4年度第1回臨時評議員会の招集について

と き 令和5年3月29日(水曜日)18時00分～

ところ 住友ビル12階会議室

議案1 令和5年度定時評議員会の終結後の理事、監事の選任内定について

議案2 一般社団財団法第89条に基づく常勤理事報酬の決議について

報告事項 令和5年度事業計画、予算

上記通知に係る令和4年度第1回臨時理事会の目的事項に係る協会提案に対し電磁的意思表示による理事、監事全員の同意を得た。

○令和4年度 第5回理事会 令和5年3月24日(金)

I 報告事項

- 1 第42回大阪国際女子マラソン・2023ハーフマラソン
- 2 第106回日本陸上競技選手権大会・室内競技、2022日本室内陸上競技大阪大会について
- 3 市長杯第75回大阪市民駅伝競走大会
- 4 大阪マラソン2023について
- 5 2023AIMS世界総会について
- 6 近畿陸協役員総会について

II 連絡事項

- 1 第10回木南道孝記念陸上競技大会について
- 2 第107回日本陸上競技選手権大会について
- 3 第1回中之島競歩大会要項(案)について

III 協議事項

- 1 任期満了に伴う評議員・理事・監事理事会推薦候補者案について
- 2 評議員選定委員会委員の選任について
- 3 令和5年度事業計画、予算案について
- 4 令和5年度事務局役職員の選任・採用等について
- 5 終業規則等改正について
 - 1) 就業規則の改正について
 - 2) 準職員就業規則の改正について
 - 3) 給与規程の改正について
 - 4) 出向規程の制定について
- 6 常勤理事の報酬額等について
- 7 育児休業規程、介護休業規程の改正について

- 8 定時評議員会の招集について
- 9 大阪陸協機構について
- 10 O S A K A夢プログラムの人事について

IV その他

- ・事務局連絡等（令和5年度の理事会等の会議日程）、各委員会報告

3) 常務理事会の開催状況等について

常務理事会は、会長、専務理事、常務理事が理事会に提出する議案の事前審査、事業運営に関する意見交換を行う会議であり、原則として、理事会開催月の前月に開催することとしている。令和4年度は下表のとおり5回の会議を招集し審議を行った。

会議名	開催日	主な審議事項	備考
第1回常務理事会	2022. 4. 20	定款変更等について	
第2回常務理事会	2022. 7. 12	新ロゴマークの決定等について	
第3回常務理事会	2022. 9. 8	創立 100 周年記念特別表彰者の決定について	
第4回常務理事会	2022. 11. 15	中間決算報告、役員等の改選について	
第5回常務理事会	2023. 1. 17	競技会日程等について	

4) 専門委員会の開催、審議状況について

- ・総務企画委員会

当委員会は、メール交換等の方法で開催し、評議員会、理事会、常務理事会の準備や法令の改正調査、規程改正案の審査等を行った。また、表彰に関する事務、議事録作成事務等を行った。

- ・競技委員会

第1回競技委員会（部長会議）（於：2022年8月5日、大阪陸協横会議室）

- (1) 今年度前半競技会の総括
- (2) コロナ対策を講じた競技会運営の緩和について
- (3) 各部の活動状況の報告

第2回競技委員会（部長会議）（於：2022年12月23日、大阪陸協横会議室）

- (1) 今年度後半競技会（12月まで）の総括
- (2) 次年度競技日程について
- (3) 次年度競技会要項について
- (4) 次年度競技会におけるコロナ対策について
- (5) 各部の活動状況の報告
- (6) WRk対象競技会の申請について

第3回競技委員会（於：2023年2月28日、ヤンマースタジアム長居大会運営室）

- (1) 2023年度競技会日程について
- (2) 2023年度競技会要項について
- (3) 全国競技運営責任者会議報告
- (4) 新年度競技会でのコロナ対策の緩和について
- (5) 各部から報告

- ・強化委員会

第1回強化コーチ会議（6月24日） 国体選手選考、国体総合優勝に向けて
 国体選手選考コーチ主任会議（8月22日） 国体大阪代表選手選考
 国体申込書類作成会議（8月24日） 国体資格審査、申込書類作成

第2回強化コーチ会議（11月10日）2023年度に向けた強化方針、強化策について

- ・広報委員会

広報に係る戦略的推進方策に関して、Y o u T u b e、S N Sの活用に関する発信ターゲットの検討など効果的な広報活動の方向性を検討した。

第1回5月25日住友ビル、第2回2月4日住友ビル

- ・経営戦略会議

中長期の課題について議論を行った。とりわけアスリートの地元での就職を促進していくための方策に関して審議を行った。

第1回8月26日、第2回10月21日、第3回12月9日

- ・コンプライアンス委員会

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う非常事態宣言等の発出に伴い、会議を招集することができなかった。

- ・財務委員会

WEB、メールを使用し、木南記念陸上等の競技会の協賛金獲得等の財務基盤の安定化対策や予算編成、決算作成事務などを進めたほか、公益認定に伴う諸手続きに関して調整やその手続き事務を担った。

(6)組織改革

総務委員会を総務企画委員会とし国際部を設置した。また、広報活動を強化していくため広報委員会に広報戦略部、映像配信部を設置し専門的な知見を有する委員を配置した。また、試行事業として推進する大阪アスレチックスアカデミア事業の専門部署を設置し、令和4年度からの本格実施の準備組織を設置した。

<以上>

事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない